

# News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

平成  
30  
年  
5  
月

日中は汗ばむくらいの初夏の陽気が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さっそくNewsletter 第3回配信です！ どうぞお楽しみください。

## 〈 診療科紹介 腎臓内科 〉

今月は腎臓内科のご紹介です。当科は、1988年に循環器内科から診療科として独立し、「腎臓内科」として全国有数の歴史を誇ります。入院ベッド数は25床、入院透析センター18床で、昨年1年間に腎生検100名、新規透析導入133名（血液透析112名、腹膜透析21名）、シャントトラブル治療（経皮的血管形成術含む）114名の実績があります。また、腎臓外科との連携により、透析用ブラッドアクセス造設、腹膜透析カテーテル手術や腎移植前後の患者診療も数多く行っています。このように、初期の腎疾患から末期腎不全に至るまで、幅広い腎臓病治療に対応できるのが当科の特徴です。

腎臓は、全身の病態を反映し制御する重要な臓器と言われています。腎臓内科での初期研修では、血圧、血糖、膠原病、感染症など総合的な内科管理が学べます。具体例として、水電解質や輸液管理、腎疾患患者への薬物投与方法、透析療法などを詳しく学ぶことができます。また、熱心な上級医の指導の下、腹部エコーや透析用の中心静脈カテーテル挿入の手技取得も可能です。最近では、初期研修医による「日本内科学会ことはじめ」での発表を積極的に行っており、今年までの3年連続で「優秀演題賞」を受賞しています。

このような腎臓内科に興味のある皆さんの見学をお待ちしています！



長期留置カテーテル挿入の一コマ



2018年4月3日 腎臓内科花見会にて（桜の下で皆さんとても輝いて見えます）

腎臓内科ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/usr/neph/nephrology.html>

文責：増田貴博（腎臓内科）

## 〈 第 2 回医学教育センターだより 〉

平成 30 年度版医師国家試験出題基準で追加・変更された項目・疾患を中心に予想問題を作成します。

第 2 回は必修の基本的事項です。

必修の基本的事項の主な変更点を示します。

- 医師のプロフェッショナリズム：生と死にかかわる倫理的問題、利他主義
- 社会と医療：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
- 医療の質と安全の確保：医療安全管理部門、リスクマネージャー、  
医療事故調査制度、産科医療補償制度、感染対策マニュアル
- 医療面接：上級医への説明と報告、カンファレンスでのプレゼンテーション
- 主要症候：眼痛
- 救急初期診療：脳保護療法（脳ヘルニア対策、体温管理療法）、  
体温異常に対する救急処置
- 主要疾患・症候群：流・早産、妊娠高血圧症候群、間質性肺疾患、  
全身性エリテマトーデス（SLE）
- 治療の基本：手術、周産期の管理、麻酔、内視鏡治療、救急患者の治療、  
緩和ケア
- 死、緩和ケア、終末期ケア：疼痛のアセスメント

主要症候：眼痛

予想問題 1 眼痛をきたすのはどれか。

- a 結膜炎
- b 翼状片
- c 白内障
- d ぶどう膜炎
- e 結膜下出血

正 解：d

解 説：red eye をきたし疾患の鑑別としては結膜炎、角膜炎、強膜炎、ぶどう膜炎、緑内障が挙げられる。眼痛を認めないのは結膜炎である。充血のパターンには結膜充血（結膜炎）と毛様充血（緑内障、ぶどう膜炎）とがあり、後者を認めた場合は、早急な眼科へのコンサルテーションが必要である。

選択肢考察：

○d ぶどう膜炎、胸膜炎、角膜炎、緑内障では眼痛をきたす。d 以外では眼痛をきたさない。

結膜充血



毛様充血



主要疾患・症候群：妊娠高血圧症候群

予想問題 2 妊娠高血圧症候群の治療薬として適切でないのはどれか。

- a ヒドララジン
- b ・メチルドパ
- c ラベタロール〈 $\beta$ -遮断薬〉
- d ニフェジピン〈カルシウム拮抗薬〉
- e アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬

正 解：e

解 説：妊婦に対する使用が認められている降圧薬には、・メチルドパ、ヒドララジン、ラベタロール〈 $\beta$ -遮断薬〉、ニフェジピン〈カルシウム拮抗薬〉がある。ただしニフェジピンは妊娠 20 週以降の使用が可能である。アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬やアンジオテンシン受容体拮抗薬〈ARB〉の RA 系阻害薬は本態性高血圧患者に対するファーストラインの降圧薬である。しかしながら妊婦には禁忌である。

自治医科大学医学教育センター・センター長・教授  
岡崎仁昭